

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドット絵立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年9月26日 NO.48 (348)

モンタ博士「花ちゃん、オー君、そして、国立第七小学校のみんなに、モンタ博士から
お土産があるよ。」

花ちゃん「お土産？うれしいな。何だろう。」

オー君「食べられるものだといいな。モンタ博士。どこに行ったの。」

モンタ博士「おとといの土曜日に、陣馬山という山に行ったのさ。とちゅうで大雨がふっ
てきたから、頂上までは行かなかったけど、お土産だよ。ハイ！どうぞ。」



オー君「何だこりゃ？」

花ちゃん「枝の先に実のようなものがついていますね。」

オー君「何かの形に似ているよ。見たことあるような気がするな。」

花ちゃん「あ！わかった。羽子板でつくはねに似ているわ。」

モンタ博士「さすがは花ちゃん。よく名前を知っているね。」

花ちゃん「え！わたし何か言いましたか。」

モンタ博士「この木の名前は、『ツクバネ』で大正解だよ。」

オー君「羽子板のつくハネにそっくりなので、この名前がついたんですね。」

花ちゃん 「へえー。なるほど。よくわかりました。」

オー君 「ところで、^{ほんとう}本当に、^{はこいた}羽子板のハネの
ように^と飛ぶのかな。」

モンタ博士「^{じぶん}自分でやってためしてごらん。」

花ちゃん 「どうやればいいのですか。」

モンタ博士「^{かんたん}そんな簡単だよ。^{みぎ}^え右の絵のように
^{そら}^む^なお空に向かって投げてごらん。」

オー君 「エイ！ほらっ！」

花ちゃん 「エイ！ほらっ！」

オー君 「うわー。くるくるまわって落ちるよ。ヘリコプターみたいですね。」

花ちゃん 「これは、とってもおもしろいですね。^{たけ}竹トンボみたいですね。」

モンタ博士「^{なんかい}^{なんかい}何回も何回もやって^{たの}楽しもう。」

オー君 「うれしいな。^{たの}楽しいな。ぼくは、この『ツクバネ』の^み実がほしくなりました。」

花ちゃん 「そうね。ほしいね。1つももらえないかな。だめかな。」

モンタ博士「はじめにも言ったけど、この『ツクバネ』の^み実は、花ちゃん、オー君、
そして、^{くにたちだいなしょうがっこう}国立第七小学校のみんなへのお^{みやげ}土産として、^も^き持って来てあげたんだ。」

花ちゃん 「うわー！うれしい。ありがとうございます。モンタ博士！」

オー君 「うれしいな。^{ともだち}友達といっしょに^{あそ}遊ぶぞ。」

モンタ博士「^{なかよ}^{あそ}^{たの}みんなで仲良く遊んで楽しんでください。」

こうちょうしつまえ
校長室前にあります。ほしい^{ひと}人にあげます。ただし
^{かず}数にかぎりがありますので、^{ひとり}1人1つずつです。

ツクバネのつばやき

私は、ビャクダン科というちょっとかわった科の落葉低木で、高さは1～2mくらいね。関東地方から西の地方に分布しているのよ。どこにでもあるというのではなく、やや個体数は少ない植物といえるかな。私を見つけてくれるなんて、さすがはモンタ博士。あんたはエライ！枝には、3～5cmくらいの葉が対生してついているのよ。花は5月頃に咲けど、あまり目立たずきれいとは言えないわ。私の特徴というのは、名前にもあるように、枝先につけるちょっと変わった形の実ですね。羽子板のハネに似ているので、ツクバネという名前になったのよ。羽子板が始めではなくて、私がもちろん先よ。私が秋風に吹かれてくるくる回っている姿を見て、羽子板のハネを作ったのよ。どっちが先でもいいけど、昔から子どもたちにたくさん遊んでもらっているのよ。私がくるくる回る姿を見て、子どもたちが喜んでくれるのは、とっても嬉しいわ。え！私を育てたい！おうちに植えたい！うーん。むずかしいわね。それはなぜかということ、私は半寄生植物といって、スギ・モミ・ツガなどの針葉樹の根に私の根が寄生するのよ。それに、私はオスの木とメスの木があって、メスでないと実がつかないのよ。以上。私のつばやきでした。

